

B工区地質記載シート

番号: B3-請負-計測工(地質)- 00047

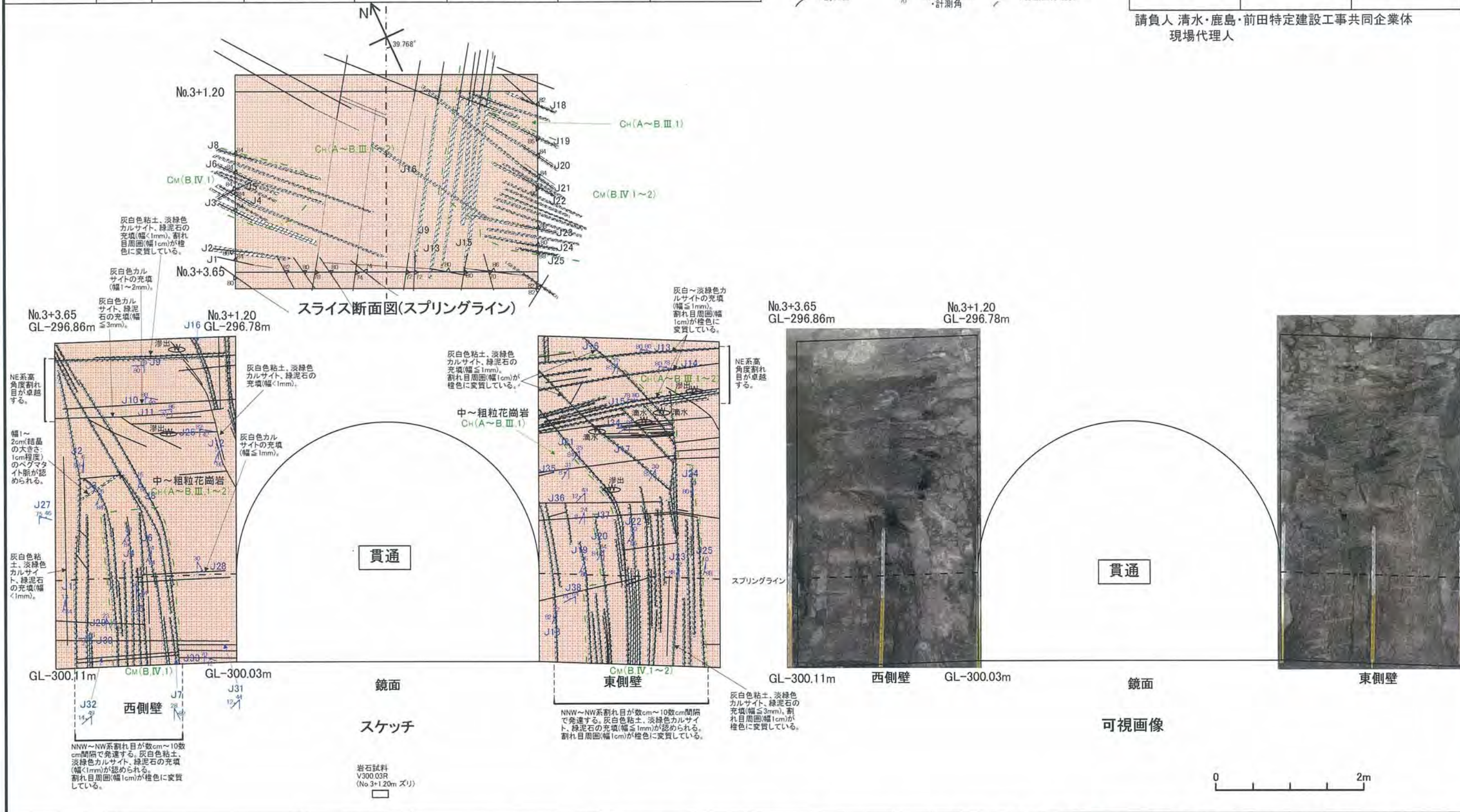
シート番号	165	日時	2009/1/12 9:05~11:00	位置・深度	300Y ST3-4 GL-296.78~-300.11m No.3+3.65~No.3+1.20m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------------	-------	--	--------	--

凡例

- : 花崗岩
- : 割れ目
- : 変質部
- : 割れ目の傾斜・計測角
- : 湧水
- : 岩級区分境界

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 清水・鹿島・前田特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	花崗岩	風化	α(新鮮)	RMR値	-296.78~-300.03m 54	特記事項 <ul style="list-style-type: none"> ・中～粗粒花崗岩(灰白色)：等粒状の黒雲母花崗岩。鉱物の粒径は石英が5mm前後でしばしば複数個が1cm程の集合体をなす。長石類は3~20mmである。黒雲母は1~10mmである。有色鉱物の割合は7~10%程度である。西側壁にペグマタイト脈(幅1~2cm)がみられる。 ・ハンマーでの打撃音は金属音で少し濁った音であり、岩盤は比較的堅硬である。変質は割れ目の周囲に限られ、壁面全体では岩石は概ね新鮮である。岩盤等級は、東側壁、西側壁中央部は高角度割れ目が卓越し、間隔が10数~数cmであるためCH級、その他の壁面はCm級である。 ・主な割れ目として38条を抽出した。両側壁とも、灰白色粘土、淡緑色カルサイト、緑泥石を挟むNNW~NW系およびNE系高角度割れ目が卓越する。また、壁面全体に低角度割れ目もみられる。 ・東側壁では、壁面のほぼ全体に灰白色粘土、淡緑色カルサイト、緑泥石を挟むNNW~NW系高角度割れ目が、壁面上部に灰白色カルサイトを挟むNE系高角度割れ目が卓越する。前者は壁面の下部では間隔が狭くなり、間隔は10数cm~数cmである。低角度割れ目は、挟み物は少なく、壁面のほぼ全体に分布する。高角度割れ目で止まるもの、交差するもの両方がみられる。西側壁も同様に壁面のほぼ全体にNNW~NW系高角度割れ目が、壁面上部にNE系高角度割れ目が卓越する。 ・湧水は、J16、J17、J34で湧水、J12、J15、J21、J26で湧出がみられる。その他の壁面でも湧出程度の湧水が存在する可能性はある。 ・当箇所は予備ステーション構法であり、進行する方向はおおよそN40°Wである。当観察分はA工区と貫通である。 ・壁面観察は工区境界から2.45m離れた場所より目視観察で実施した。
	岩相	中～粗粒花崗岩(灰白色)	変質	1(非変質) 2(弱変質)	岩石試料番号	
		湧水	滲出 滴水	採水試料番号	なし	
		電研式岩級	-296.78~-300.03m CH(A~B.Ⅲ.1~2) -296.78~-300.03m Cm(B.Ⅳ.1~2)			

B工区地質記載シート

番号: B3-請負-計測工(地質)- 00046

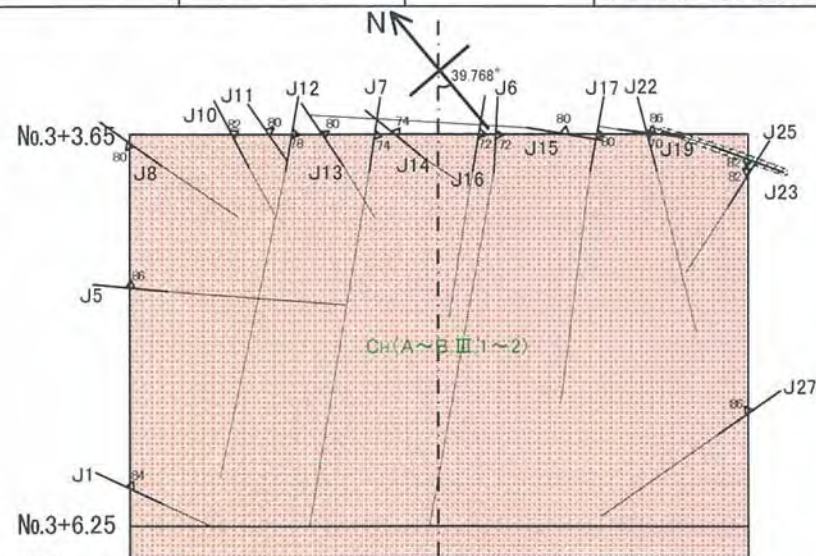
シート番号	164	日時	2009/1/8 18:30~20:30	位置・深度	300Y ST1-2 GL-296.86~300.20m No.3+6.25~No.3+3.65m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------------	-------	---	--------	--

凡例

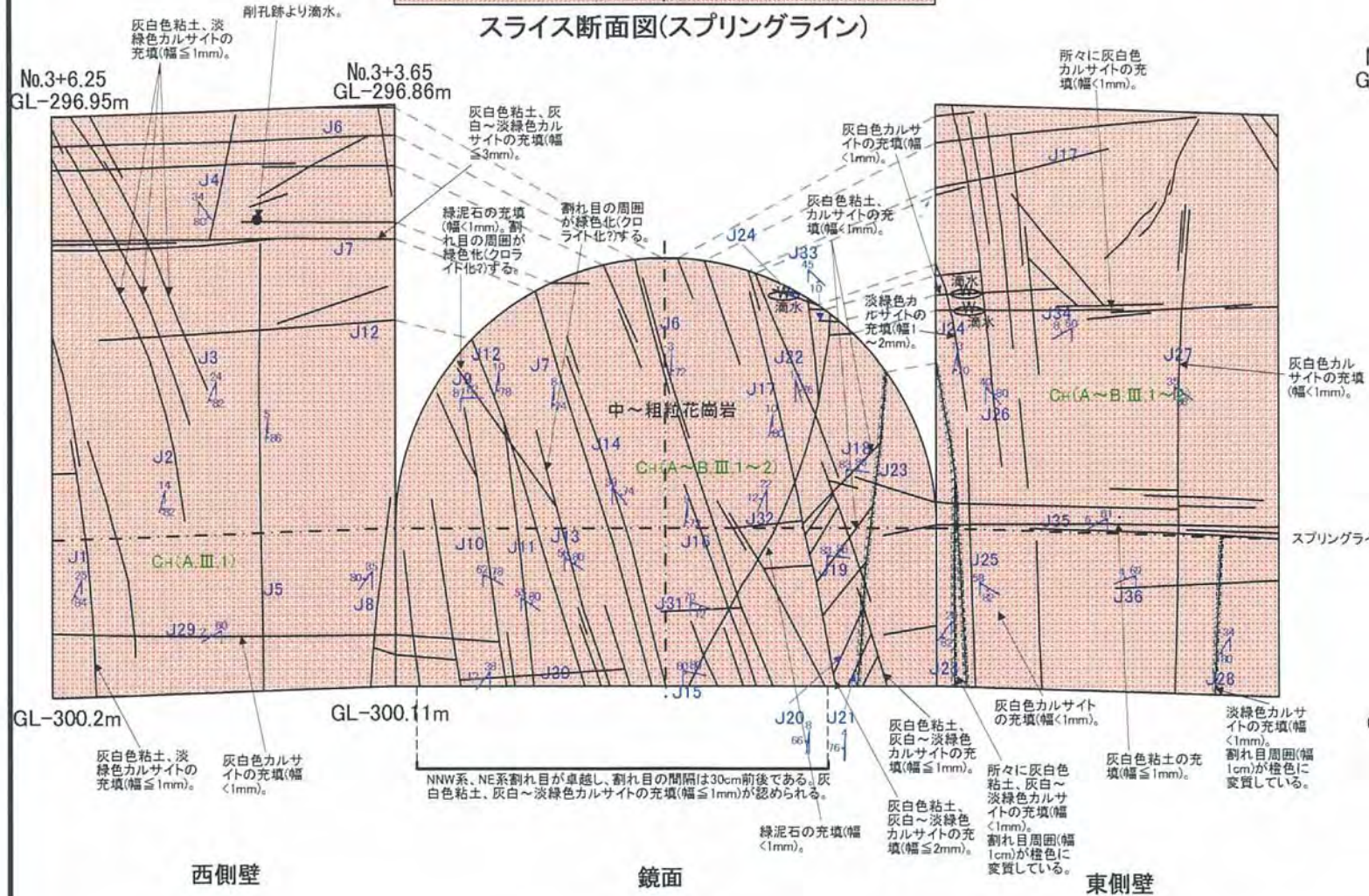
: 花崗岩	: 変質部	: 湧水
: 割れ目	: 割れ目の傾斜・計測角	: 削孔跡

総括監督員	主任監督員	監督員

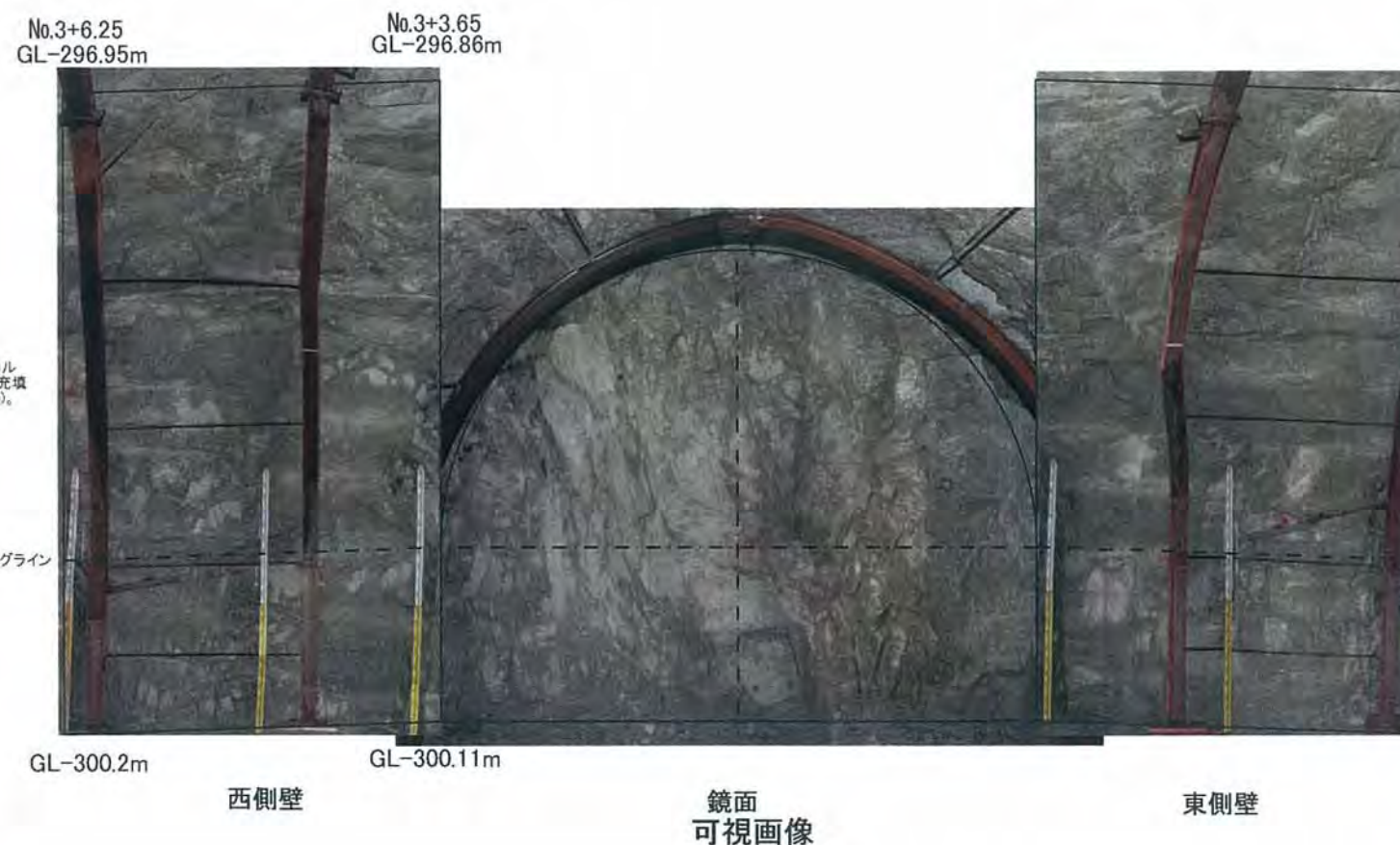
請負人 清水・鹿島・前田特定建設工事共同企業体
現場代理人



スライス断面図(スプリングライン)



鏡面
スケッチ



0 2m

岩種	花崗岩	風化	α(新鮮)	RMR値	-296.86~300.2m 64
岩相	中~粗粒花崗岩(灰白色)	変質	1(非変質) (一部2(弱変質)を含む)	岩石試料番号	なし
		湧水	滲出 滴水	採水試料番号	なし
		電研式岩級	-296.86~300.2m CH (A~B, III, 1~2)		

特記事項

- 中~粗粒花崗岩(灰白色): 等粒状の黒雲母花崗岩。鉱物の粒径は石英が5mm前後でしばしば複数個が1cm程度の集合体をなす。長石類は3~20mmである。黒雲母は1~10mmである。有色鉱物の割合は7~10%程度である。
- ハンマーでの打撃音は金属音~少し濁った音であり、岩盤は比較的堅硬である。変質は一部の割れ目周囲(J23, J28)に限られ、壁面全体では岩石は概ね新鮮である。岩盤等級は、すべての壁面がQH級である。
- 主な割れ目として36条を抽出した。主に鏡面と天端に灰白色粘土、灰白~淡緑色カルサイトを挟む高角度割れ目が卓越する。また、東側壁に湧水を伴う低角度割れ目がみられる。
- 東側壁では、鏡面側に高角度割れ目が比較的多くみられる。低角度割れ目は高角度割れ目と交差し、連続性のよいものが多い。鏡面では、NNW系、NE系高角度割れ目が多くみられ、壁面の左部は楔状を呈する。また、壁面とほぼ平行な割れ目(J15)もみられる。J17, J22の間、J17, J23の間にはそれぞれ、NE系北傾斜の高角度割れ目、NNW系東傾斜の高角度割れ目がみられる。西側壁では、上部にNE系高角度割れ目がみられ、その他にNNW系高角度割れ目が多くみられる。低角度割れ目はあまりみられない。
- 湧水は、J24, J33, J34で滴水がみられる。その他の壁面でも滲出程度の湧水が存在する可能性はある。また、西側壁上部の削孔跡より滴水が認められる。
- 当面所は予備ステージ構坑であり、進行する方向はおよそN40°Eである。
- 壁面観察は鏡面から2.6m離れた場所より目視観察で実施した。